

【6-6 外部評価まとめ 記入例】

目的	草稿段階の診療ガイドラインの形式的な妥当性を確かめること。
方法	<p>版： 草稿</p> <p>期間： 2013年12月15日～2014年1月14日</p> <p>評価者： 診療ガイドラインの専門家、臨床の専門家の6名から構成される外部評価グループ（代表：〇〇△△）。外部評価グループは、診療ガイドライン作成グループが予め指定した。</p> <p>ツール： AGREE IIを用いた。</p> <p>その他： 外部評価グループのコメントの後に1ヶ月の修正期間を見込んだ。</p>
経過	<p>2012年12月15日に外部評価グループを決定した。</p> <p>2013年11月31日に草稿が完成した。</p> <p>2013年12月15日から2014年1月14日までの間に外部評価をするよう、外部評価グループに依頼した。外部評価グループは、AGREE IIを用いて個別に評価を行い、2014年1月6日に評価会議を実施し、評価の結果を共有し、共有の後に再度評価を行った。再度行われた評価結果を1月10日までに評価グループ代表に集め、結果を統合した。</p> <p>2014年1月31日に診療ガイドライン作成グループは編集会議を行い、外部評価の結果を吟味した。</p> <p>2014年2月1日～2014年3月1日まで、診療ガイドライン作成グループは、外部評価の結果を踏まえて内容の修正を行った。</p> <p>2014年3月5日、診療ガイドライン作成グループは編集会議を行い、外部評価の結果への応答について検討した。</p>
結果	<p>「対象と目的」「利害関係者の参加」の領域では問題なく、全体としてはおおむね良好である、との評価を得た。</p> <p>次の点について改善の提案を受けた。</p> <p>①「作成の厳密さ」について、エビデンス総体を評価する枠組みの提示が不十分である。</p> <p>②「提示の明確さ」について、個々の推奨の位置付けが不明である。</p> <p>③「適用可能性」について、コストに関する検討・記載が不十分である。</p> <p>④「編集の独立性」について、個人の利益相反に対する対応についての記載がない。</p> <p>以上の提案を受けて、次のような修正を行った。</p> <p>①→エビデンス総体を評価した際の評価シートを提示することとした。</p> <p>②→重要臨床課題に対応する推奨をフローチャートの形で提示した。</p> <p>③→推奨ごとにコストに関して再検討を行い、記載できるものは追記した。</p> <p>④→個人の利益相反については、学会の利益相反委員会で管理していること、その内容を追記した。</p>